

令和3年度 第3回学校運営協議会（記録）

1 日時 令和4年2月1日（火）9:00～12:00

2 参加者 学校運営協議会委員

- ・門池地区連合自治会長 様
 - ・沼津市手をつなぐ育成会顧問 様
 - ・さんしんハートフル株式会社人材開発部主査 様
 - ・愛鷹分校 PTA 会長 様
 - オブザーバー・元袋井特別支援学校長 様
- 校長、教頭、高等部主事、教務主任

3 校長挨拶

- ・新型コロナウイルス感染症対策により、急遽 Zoom での会議となったが、協力いただき感謝している。今回は1年間の評価と令和4年度に向けての学校経営について検討するので意見をいただきたい。

（オブザーバーより）

- ・7年前1年間副校長として勤務した。この機会にお役に立てるように、全力でやっていく。

4 今年度の学校経営について

ア 安全

- ・防災・防犯・安全では、沼津城北高校との防災訓練で、高校と同様に地区別に分かれる活動を行い、互いに知る機会を設定した。また、エピペンの使い方講座を実施。他に、門池地区の方々との学習やロゲイニングに力を入れて、生徒の防災意識を高めた。道徳教育は、全体計画や年間指導計画を立てた。来年度は授業が行えるように取り組む。生徒指導では、ラインやスマホの使い方について外部講師から学び、個人情報の取扱いについて意識を高めることができた。

（委員より）

- ・障害者やLBGTなど多様性について、わからなくて悩んでいる生徒もいるかもしれないので学ぶ機会を持ってほしい。
- ・ラインやスマホの使い方は親がうまく教えられるので、特に個人情報の扱いについては専門家の方からしっかり学んでほしい。

イ 専門

- ・授業改善では、職業を窓口に、教科横断的な視点をおさえ、主体的に働く生徒を育てる授業づくりに取り組んだ。学年で研修を重ね、卒業後を見据えた授業づくりができた。専門性では、職場実習の目標を明確したことで、主体的に取り組む事ができた。実習後は、評価表を使い、振り返ることで、自分の成果と課題が分かり、働き方の改善をすることができた。ICTでは、プロジェクターの活用やオンラインを利用した授業について学んだ。オンラインを使って、学習できたことは効果的だった。

（委員より）

- ・先生方が勉強してくれたおかげで、Zoomを利用してのやりとりが可能になった。職場体験等、現地に行かなくてもできる学習をいろいろな機会できると良い。オンラインとリアルのハイブリッドで、授業を組み立ててほしい。職場でICTに触れるので、必ず学校の段階から学習できるような体制を整えてほしい。
- ・ICTはすごく有意義である。兄弟の学校で、クラスが学級閉鎖になったがオンライン授業が行われ、学校に行かなくても学習できた。分校では、オンラインでは、難しい内容もあるが、昨年度休校中、子どもが、時間を持て余していたので、活用できたらいい。
- ・ICT 機器が、意思表示できる方法として使えるようになるとうい。事業所でも、パソコンに打ち込んだものを発表に利用している。情報発信しやすいし、情報を受け取りやすい良さがある。
- ・企業もICTを活用しながら職場体験できる方法を考えなければならない。

ウ 連携

- ・地域との交流では、門池福祉まつりへの参加は保護者からもとても良かったという声が上がっていた。また、光長寺保育園との交流ができ、人との接し方を学べた。沼津城北高校との

交流では、サッカー部と交流ができ、生徒同士のコミュニケーションを取ることができた。センター的機能・理解啓発では、学校見学8校、部主事の中学校訪問2校を実施できた。今年度は共生共育の充実を目指した。来年度は共生社会を目指す。他に、委員の方の推薦により、沼津市環境衛生基地推進協会表彰や県青少年育成会議青少年団体等の顕彰、沼津千本ライオンズクラブ青少年表彰制度千本賞の受賞ができ、分校のことを地域に広報して頂いた。

(委員より)

- 基本インクルーシブだが、まだまだ進んでいない。幼少期から接することが大切であり、大人になってから、見たことがない、聞いたことがない人といきなり接することは難しい。幼少期から自然に交流していくことが大事である。
- 地域として、分校との交流で、共生社会の貴重な体験ができています。コロナで分断されるのではなく、連携する大切さを実感している。いろんな行事を中止するのではなくなるべく実施できるように、計画は常に持って状況によってやめる。生徒にとっての機会を損失しないように、教育活動に取り組んでほしい。
- コロナ禍でもできることをやってもらいたい。来年度もこのままやっていたら良い。
- 新入社員がさんしん特例子会社で1日体験を行っている。若い人にとって、障害者との交流は、昔より環境が整ってきている。みんながわざわざ理解するのではなく、当たり前前の環境が作れるようにしていきたい。

エ チーム

- マネジメント力の育成では、OJT やメンターの研修を行うことで、以前よりも教職員間の引き継ぎや連携がスムーズになってきた。本校との連携では、定期的な事務職員との打ち合わせや連絡票のやり取りで、確実に事務業務が行われた。

(委員より)

- どの職場でも、年齢層の幅が広い。OJT やメンター研修は大切である。若い人のケア、定着が進むと良い。

(オブザーバーより)

- 御意見を伺って、改めて、地域の皆さんに支えられてる学校だと感じた。今年度の学校経営計画の成果と課題を聞き、なかなか一筋縄には解決できないと思った。沼津城北高校と交流は、相談しながらやっていくことが大切。門池まつりへの参加や分校の教育活動の情報発信など、すべてが、分校生徒の日常生活とつながっている。これからのことを期待しながら見守っていききたい。

5 現在の就労状況について部主事から説明

- 部主事より3年生の進路先について、報告。また、離職した卒業生について、報告し、委員の方々から、御意見をいただいた。

6 次年度グランドデザインについて

- 教頭が、令和4年度のグランドデザインを説明。キーワードは、つながり。取組目標の重点として、「道徳教育・人権教育」「授業改善」「センター的機能・理解啓発」に力を入れていきたい。併せて、研究指定受けた図書についても取組目標に挙げ、取り組んでいきたい。

(委員より)

- より良い学校環境、より良い社会を創る、地域作りや学校作りで共通理解を持つ、学校目標に寄り添った形で地域として何ができるか、防災関係も含めて、考えていきたい。
- 目指す生徒像のなかに、自己肯定感や自信を持つ事などの言葉が入ると良い。
- 知的障害の特性を見極めての対応が大切になる。より一層の家庭との連携をお願いしたい。また、進路の多様性も広がってきている。沢山の情報をより沢山の人の人に広めてほしい。
- SDGs がどこにも入っていない。目標の中に入れてたらどうか。

(オブザーバーより)

- 令和4年度がとても楽しみ、テーマの「つながり」は、とても大事なキーワード、要は世の中とつながっていくこと。働くことに夢を持ちということは、生きることに夢を持つということ。連携の「隣接高等学校」表記は、学校名を入れた方が良い。高校との共生共育連絡会で、グランドデザインを示し理解してもらったらどうだろうか。生徒も保護者も、愛鷹分校に入学して良かったと思えるようにやっていけると良い。